

Letter from Samoa

サモア通信 5th
Feb.2018
豊橋南高校
青年海外協力隊
松川博明

Talofa!!今年度も残りわずかとなりましたが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。3年生にとってはこれが最後のサモア通信ですが、引き続き来年度も南高校 HP に掲載予定ですので、是非読んでいただければと思います。さて、今回のサモア通信では、サモアの「Prize Giving」について紹介したいと思います。

○Prize Giving って何？

Prize Giving は日本ではあまり馴染みのない言葉かもしれませんが大洋州地域の学校では一般的で、簡単に言うと表彰式兼卒業式のようなものです。サモアの学校は1月末に年度がスタートして12月半ばに1年が終わります。ですので、昨年度のPrize Giving は12月15日に行われました。

○サモアの Prize Giving

日本の卒業式のような厳粛な雰囲気は全くありません。屋外で青空のもと、歌や踊りを交えながら地域の人達も一体となった形で行われます。大きな流れとしては「校長やPTA、牧師さんの講話→表彰式→卒業生代表挨拶→パーッとみんなで盛り上がる」このような感じでした。途中で歌や踊りが頻繁に盛り込まれ、明るく楽しい雰囲気のものでした。

○衝撃的な表彰式

Prize Giving の中で一番衝撃的だったのが、表彰式。これは全学年（5学年）全

教科（約10教科）の上位3名まで全て表彰されます。それは大変な量の表彰です。呼ばれた生徒は賞状と記念品を受け取った後、保護者や地域の人からレイを首にかけられます。総合成績優秀者に対しては写真のように半端ない量のレイがいろんな人からかけられていました。そ



して1つの学年の表彰が終わると、表彰された生徒達が前に出てきて、音楽に合わせて踊りだします、それに同調して先生や地域の人達も踊りだします。サモアでは重要な儀式のときには歌と踊りは欠かせないものとなっているようです。

○みんな違ってみんないい

表彰がとても多いPrize Givingですが、どの教科も上位の生徒の顔ぶれは決まっており、数人の優秀な生徒が賞を独占しているような状況でした。つまり一切表彰されない生徒はたくさんいます。しかし彼らも一生懸命学校生活を送っています。たとえ表彰されなかったとしても一人一人の得意な部分や素敵な部分は必ず存在します。自分も彼らが笑顔になれる瞬間を大切にしようと思っております。みなさんも自分が楽しいと感じられる瞬間、笑顔になれる瞬間を追求して次のステップへ進んで欲しいと思います。その瞬間はみんな違ってみんないい。その瞬間を追求した時間はきっとみなさんの宝物になると信じています。少し早いです。3年生のみなさん卒業おめでとうございます。また会う日まで! Fa soifua!

